

Awaji-Shima Castle and Fortress introduction guide

淡路国城攻メ

城名	住所	攻城日
☐ 松帆台場跡	淡路市岩屋	年月日
☐ 高崎台場・砲台跡	洲本市由良成ヶ島高崎	年月日
☐ 霞台場跡	洲本市海岸通1丁目	年月日
☐ 炬口台場跡	洲本市炬口1丁目	年月日
☐ 六本松台場跡	洲本市由良町成ヶ島	年月日
☐ 生石台場跡	洲本市由良町由良	年月日
☐ 由良要塞生石山砲台群	洲本市由良町由良	年月日
☐ 成山砲台（第1・第2）	洲本市由良町由良	年月日
☐ 赤松山堡塁	洲本市由良町由良	年月日
☐ 伊張山堡塁	洲本市由良町由良	年月日
☐ 門崎砲台	南あわじ市福良丙	年月日
☐ 行者ヶ嶽砲台	南あわじ市福良丙	年月日

【用語解説】

曲輪…城館の櫓や建物が立っていた平場。一般的に城内の最も高いところから、主郭（本丸）、Ⅱ郭（二の丸）と呼ぶ。

切り岸…石垣を持たない城館の周囲を巡る急斜面。自然地形を削り出したり、上端に盛り土を行って急傾斜となし、外部からの侵入を防ぐ。

虎口…城館の出入り口。土塁や石垣が発達した城館では、門などが設けられうことから位置が明確。一方で、攻防の焦点となるため、山城にはあまり設けられないことも多い。

【さらに知りたい方に】Further Reading

兵庫県教育委員会1985『兵庫県の中世荘園・中世城跡』
兵庫県教育委員会1992『兵庫県文化財調査報告書第113冊 叶堂城跡』
城郭談話会2017『淡路洲本城』
橘川真一・角田誠2011『新版 ひょうごの城』神戸新聞総合印刷
兵庫県教育委員会2013『兵庫県の台場・砲台』
兵庫県立考古博物館2016『築城』（企画展図録）
兵庫県立考古博物館2018『山城探訪』（企画展図録）

文化庁 令和2年度地域文化財総合活用推進事業

編集発行：兵庫県歴史文化遺産総合活用推進実行委員会（事務局：県教育委員会文化財課）

協力：洲本市教育委員会・淡路市教育委員会・南あわじ市教育委員会

戦国乱世

周囲を海で囲まれた、淡路島。

海上交通の拠点であった、淡路国には、数多の城跡が遺されている。

戦国時代には、細川氏や三好氏の庇護のもと、安宅氏や菅氏が水軍を率いて、瀬戸内海の結節点に盤踞していた。

仙石久秀、脇坂安治、加藤嘉明など、錚々たる大名達が豊臣秀吉の号令一下、近世淡路国の魁となって、島を駆け抜けた。各地の城は、まさに彼らが生きた時代の生き証人として、今もなお、威風堂々と佇んでいる。

養宜館 Yagi-Residence



南北 230m、東西 130mの平地城館跡。現在は、北側と東側に高さ約 2.7mの土塁が残る。近世の地誌である『味地草』に描かれた絵図によると、四周に本来は土塁があり、東西の土塁の中央部分には外側へ向かって張り出す櫓台を伴う虎口が設けられていたようである。このような大型の土塁で方形に囲い込む平面構造や規模から城主は、淡路国守護の細川氏であると考えられている。
県指定史跡

所 在：南あわじ市八木養宜中
築 城 年：暦応3（1340）年
城 主：細川氏
アクセス：県道126号線中八木交差点を北

Shichi-Fort 志知城

水堀で囲まれた、平地城館跡。三原平野を南から北へと流れる大日川の西側に位置している。本丸の周囲には幅10m以上の水堀がめぐる。戦後の航空写真等を見ると、周囲と異なる細長い水田の地割が水堀の外側に巡っていることが確認でき、志知城全体が隣接する大日川から水を取り入れていたと考えられる。開発で失われることが多い平地城館にあって、淡路島内でも主要部が完存する唯一の城跡である。

所 在：南あわじ市志知松本
築 城 年：天正年間（1573-1592）
城 主：加藤嘉明か
アクセス：県道31号線志知交差点の南東

叶堂城 Kanodo-Fort



三原平野の北東、三原川の河口近くにそびえる平山城。戦国時代に安宅氏によって築城されたのが始まりとされる。淡路国支配の拠点として、天正年間に仙石久秀、次いで脇坂安治によって、現在見るこのでできる山頂部分が整備された。元和元（1625）年には阿波蜂須賀家領となり、山麓部分の整備が行われた。総石垣だけでなく、北側斜面に残る東西の「登り石垣」や、堀で囲まれた山麓部分も、見どころである。
国指定史跡・市指定史跡

所 在：南あわじ市松帆
築 城 年：慶長年間（1596-1615）
城 主：石川光元・加藤嘉明
アクセス：県道 31 号線御原橋北詰を西

Shirasu-Fort 白巣城



所 在：洲本市五色町鮎原三野畑
築 城 年：戦国時代
城 主：安宅氏
アクセス：県道 66 号線から林道

岩屋城 Iwaya-Castle



所 在：淡路市岩屋
築 城 年：慶長 15（1610）年
城 主：池田忠雄
アクセス：国道 28 号線岩屋港南側

Takenokuchi-Fort 炬口城

洲本城からみて北側の山塊に所在する単郭の山城跡。淡路島の土豪である、安宅氏の城の1つと言われており、洲本平野を挟んだ南側には洲本城が位置する。南北両方の尾根続きを堀切で断ち切った真中に、コの字状を呈する高さ約 2mの土塁で囲われた方形の曲輪が残る。この土塁には、櫓台や横矢掛かりが設けられ、炬口城の築城技術の高さをうかがい知ることができる。
県指定史跡

所 在：洲本市炬口
築 城 年：戦国時代
城 主：安宅氏
アクセス：国道 28 号線炬口北交差点から徒歩

洲本城 Sumoto-Castle



所 在：洲本市小路谷
築 城 年：大永 6（1526）年
城 主：安宅氏・仙石氏・脇坂氏等
アクセス：三熊山ドライブウェイから駐車場あり

大坂防衛

瀬戸内海を扼する明石海峡、鳴門海峡。そして、太平洋を扼する紀淡海峡。3 つの海峡を擁する淡路島は、江戸時代から大阪（湾）を守護する、海の要塞であった。

嘉永 6（1853）年に、ロシア軍艦ディアナ号の大阪湾への侵入により海防強化が叫ばれ、大阪湾・瀬戸内海沿岸には、幕府や沿岸諸藩によって台場が構築されていく。

淡路島では徳島藩によって台場が作られ、明治時代になると旧陸軍によって紀淡海峡を守る要塞が作られた。

砲台などの遺構には、当時の人々の大阪防衛に対する並々ならない、張り詰めた意識を垣間見ることができる。

松帆台場 Matsuho-battery



所 在：淡路市岩屋
築 城 年：安政 5（1858）年
設 置 者：徳島藩
アクセス：県道 31 号線道の駅岩屋付近。（私有地につき立入時要確認）

明石海峡を望む淡路島北西端部に位置する台場跡。徳島藩によって、安政 5（1858）年から構築された。海に面する北側は石垣がめぐり、平面形が M 字状を呈する。台場の内部には、分厚い土塁と、砲台のための石垣造りの弾薬庫が設けられている。また、台場南側には、バッテリーと呼ばれる船舶用のドックが作られ、砲台とともに、船の入港も可能であった。
国指定史跡

Takenokuchi-battery 炬口台場

紀淡海峡を睨む位置に築かれた台場跡。徳島藩によって文久 3（1863）年に構築された。海に面する東側に石垣で基礎を作り、その上に土塁を設け、約 2mの胸壁とし、平面形は多角形を呈する。砲座は、各辺に 2 門ずつ、あわせて、6 門が設けられており、眼前を通過する船舶に向いていた。

炬口台場は、島内北部の松帆台場のように、海峡が挟まる箇所ではない。これは南の霞台場と合わせて、洲本城下町防衛のために築かれたものである。

由良要塞 Yura-fortress



紀淡海峡を睨む位置に明治時代に築かれた砲台及び要塞跡。明治 22（1889）年から旧陸軍によって整備され、兵庫側だけでなく、対岸の和歌山県友ヶ島・加太も含めて由良要塞とされた。現地にはレンガやコンクリートで作られた砲台や弾薬庫跡が数多く残っている。また、これらの海側の砲台を守備するために、山中に構築された「堡塁」も残存している。

所 在：洲本市由良町ほか
築 城 年：明治 22（1889）年
設 置 者：日本陸軍
アクセス：県道 76 号線から生石公園内

愈々披御入魂 別而可馳走侯

「心を燃やし、淡路の城を駆け巡ろう！」の意

城名	住所	攻城日
☐ 佐野城跡	淡路市佐野	年月日
☐ 池ノ内城跡	淡路市池ノ内	年月日
☐ 中田古城跡	淡路市中田	年月日
☐ 妙安寺城跡	淡路市中田	年月日
☐ 城の腰城跡	淡路市大町上	年月日
☐ 志筑城跡	淡路市志筑	年月日
☐ 岩屋城跡	淡路市岩屋古城跡	年月日
☐ まないた山城跡	淡路市岩屋大谷	年月日
☐ 小田館	淡路市小田	年月日
☐ 仁井館	淡路市仁井	年月日
☐ 細川館	淡路市斗ノ内	年月日
☐ 育波城	淡路市育波	年月日
☐ 室津館	淡路市室津	年月日
☐ 壱浦城	淡路市野島壱浦	年月日
☐ 城山遺跡	淡路市浅野南	年月日
☐ 備中館	淡路市生田畑	年月日
☐ 尾崎城跡	淡路市尾崎	年月日
☐ 田村館跡	淡路市中村	年月日
☐ 入野城跡	淡路市入野	年月日
☐ 山田城跡	淡路市山田甲	年月日
☐ 高畑塁	淡路市草香	年月日
☐ 柳沢城跡	淡路市柳沢乙	年月日
☐ 柳沢城見張り台跡	淡路市柳沢乙	年月日
☐ 田村城跡	淡路市中村	年月日
☐ 向殿館跡	淡路市浦	年月日
☐ 正井館跡	淡路市浦	年月日
☐ 久留麻土居館跡	淡路市久留麻	年月日
☐ 岡田館跡	淡路市河内	年月日
☐ 城ノ腰城跡	淡路市谷	年月日
☐ 猪熊城跡	淡路市釜口	年月日
☐ 阿文字城跡	淡路市釜口	年月日
☐ 洲本城跡	洲本市小路谷	年月日
☐ 炬口城跡	洲本市炬口	年月日
☐ 安宅館跡	洲本市下内膳小字西岡	年月日
☐ 羽風山城跡	洲本市納	年月日
☐ 勝間城跡	洲本市金屋勝間	年月日
☐ 菅館跡	洲本市安乎山田原	年月日
☐ 崎田城跡	洲本市安乎宮野原	年月日
☐ 河合城跡	洲本市安乎宮野原	年月日
☐ 由良古城跡	洲本市由良	年月日
☐ 由良城跡	洲本市由良成ヶ島	年月日
☐ 城腰城跡	洲本市安乎	年月日
☐ 猪鼻城跡	洲本市千草	年月日
☐ 宇城城跡	洲本市五色町鮎原田処	年月日
☐ 都志城跡	洲本市五色町都志大日	年月日
☐ 吉田城跡	洲本市五色町鮎原吉田	年月日
☐ 岡田城跡	洲本市五色町鳥飼	年月日
☐ 白巣城跡	洲本市五色町鮎原三野畑	年月日
☐ 高丸城跡	洲本市五色町鳥飼	年月日
☐ 市城跡	洲本市五色町鳥飼	年月日
☐ 古城跡	洲本市五色町広石中	年月日
☐ 庄田城の腰城跡	南あわじ市倭文庄田	年月日
☐ 加地館跡	南あわじ市倭文庄田	年月日
☐ 船越館跡（庄田城跡）	南あわじ市倭文庄田	年月日
☐ 山添城跡	南あわじ市山添	年月日
☐ 中堂城跡	南あわじ市山添	年月日
☐ 広田城跡	南あわじ市広田広田	年月日
☐ 中筋古城跡	南あわじ市広田中筋	年月日
☐ 高木城跡	南あわじ市榎列小榎列	年月日
☐ 上幡多古城跡	南あわじ市榎列上幡多	年月日
☐ 富永館跡（飛永城跡）	南あわじ市市新	年月日
☐ 階出屋敷館跡	南あわじ市市徳長	年月日
☐ 野口館跡	南あわじ市市善光寺	年月日
☐ 志知城跡	南あわじ市志知松本	年月日
☐ 中島土居館跡	南あわじ市志知中島	年月日
☐ 地頭方殿の土井館跡	南あわじ市神代地頭方	年月日
☐ 栗原城跡	南あわじ市神代浦壁	年月日
☐ 上田土居城跡	南あわじ市神代社家	年月日
☐ 前山城跡	南あわじ市八木養宜上	年月日
☐ 柿の木谷城跡	南あわじ市八木大久保	年月日
☐ 城の山城跡	南あわじ市八木養宜中	年月日
☐ 養宜館跡（大土居城跡）	南あわじ市八木養宜中	年月日
☐ 上田城跡	南あわじ市八木大久保	年月日
☐ 中の子城跡	南あわじ市神代浦壁	年月日
☐ 叶堂城跡	南あわじ市松帆古津路	年月日
☐ 湊城跡	南あわじ市湊里	年月日
☐ 阿那賀城跡	南あわじ市阿那賀南	年月日
☐ 城山（伊加利）城跡	南あわじ市伊加利本村	年月日
☐ 西山南土井館跡	南あわじ市賀集八幡南	年月日
☐ 賀集城の腰城跡	南あわじ市賀集鍛冶屋	年月日
☐ 城が丸城跡	南あわじ市賀集八幡	年月日
☐ 佐々木土居城跡	南あわじ市賀集八幡南	年月日
☐ 古城山城跡	南あわじ市賀集鍛冶屋	年月日
☐ 丹生山城跡	南あわじ市賀集野田	年月日
☐ 城の土居城跡	南あわじ市賀集福井	年月日
☐ 鶴島城跡	南あわじ市福良丙	年月日
☐ 塩屋古城跡	南あわじ市阿万塩屋	年月日
☐ 郷殿城跡	南あわじ市阿万上町	年月日
☐ 沼島城跡	南あわじ市沼島	年月日

